新潟大学国際センター紀要　第２号　118 - 128，2006年　Journal of the International exchange Support Center
2006, Vol. 2: 118 - 128, Niigata University

中国人大学生の日本語学習の動機づけについて

Motivation of Chinese University Students towards Learning Japanese

郭　俊海*
(guo@isc.niigata-u.ac.jp)
全　京姫†
(quan2002jp@hotmail.com)

The present study investigated the motivational factors of Chinese students who are learning Japanese language at Harbin University of Science and Technology in China. 200 students answered the motivation questionnaire that consists of 38 reasons for learning Japanese. Their final examination grades were used as a determiner of their Japanese proficiency. Factor analysis and stepwise regression were performed. Six motivational factors were extracted: "Study in Japan", "Interest in language learning", "Job orientation", "Self-esteem", "Japanese popular culture", and "Knowing about Japan." The stepwise analysis revealed that the "Job orientation" was the best predictor of their language achievement. Although this finding is not consistent with those of previous studies, the result reflects Chinese students' social-cultural background. It suggested that to further facilitate students' Japanese language learning, it is necessary to raise cultural exchange between China and Japan.

1. 背景

1. 1　研究目的

本研究では、日本語を外国語として学ぶ、中国人大学生の動機づけがどのようなものか、またそれが彼らの日本語学習にどう影響を及ぼすかについて考察することを目的とする。

日本語学習者、特に海外における日本語学習者の増加とともに、その目的も多様化しつつある。戦後、中国における日本語教育は1972年に日中国交正常化以降盛んに行われるようになった。特に、1978年に中国の対外開放政策の実施及び近年の経済の急成長による、日本企業の中国進出に伴い、中国では日本語を学ぶ若者が年々増えている。また、近年の漫画、テレビドラマ、アニメ、ファッション、J-POPなど日本の若者文化の影響によって、中国の若者の間で日本の若者文化のブームが日に日に高まり、日本語学習者の数が倍増しその学習動機も実に様々である。このような状況下で、中国における日本語学習者のニーズと学習者像

* 新潟大学国際センター　助教授
† 中国ハルビン理工大学　副教授

を調査し、そこから今後の日本語教育の在り方を探るのは急務と言ってよい。

1. 2　先行研究

1. 2. 1　言語学習動機づけの伝統的研究

第二言語または外国語学習の成果を左右する動機づけの重要さについては多くの研究によって報告されている。動機づけは外国語学習でよく見られる学校での体系的な言語学習環境では、学習者の言語教育の場（situation）に対する意識に直接的な影響を及ぼす（Gardner, 1979）。また、動機づけと目標言語に対する態度が第二言語学習に注ぐ努力の大きさを決める（Ellis, 1997）。さらに、動機づけが学習するという活動への参与度を決め、強い動機づけの学習者は積極的に目標言語話者と交流し、そして入力された目標言語の知識の量を増加させる（Kreshan 1982; Scarcella and Oxford 1992）。動機づけは学校での学習が終了した後、その言語能力を維持するのにも役に立つ（Gardner, Lalonde, Moorcroft and Evers 1985）。

第二言語習得における学習者の動機・態度の研究は、GardnerとLambertによって始められ、彼らを中心に進められてきた。Gardner and Lambert（1972）では、学習者の動機を、学習者が目標言語話者の文化や言語、その言語共同体社会について知りたい、最終的に自分もその共同体の一員になりたいという「統合的動機づけ（integrative motivation）」と、外国語の学習を通じてただ仕事に役立てたい、自分自身の社会的地位を高めたいなど、ある目的を達する一種の手段として使う「道具的動機づけ（instrumental motivation）」に二分している。

Gardnerらの動機づけについての二分法は、その後の言語学習動機づけの研究に基礎的な土台を築いた。しかし、統合的動機づけと道具的動機づけとではどちらが言語学習に影響を及ぼすかについては、これまではまだ一致した結論に至っていない。Gardnerらの早期の研究（Gardner and Lambert 1959, Gardner and Lambert 1972, Gardner 1985など）では、統合的動機づけがより優位なものとして強調されているが、その理論に基づいた他の研究、例えば、英語を学ぶインド人高校生を対象としたLukmani（1972）では、道具的動機づけが高いとされている。また、日本における成人英語学習者を扱ったChihara and Oller（1978）は、統合的動機づけと道具的動機づけとでははっきりした区別が見られなかった。さらに、Gardnerら自身もその後の研究においても、道具的動機づけは時として統合的動機づけよりも重要であると指摘している（Gardner and MacInttyre 1991）。

このように、Garnderらの動機づけの二分法は、異なった環境下の学習者の動機づけについて説明できなくなった。Oxford and Shearin（1994）はGardnerらの伝統的な分類法を踏まえ、「エリート主義」を重要な動機づけの一つとして加え、難しい言語を学習することは一種のエリート主義の自己満足と見られると指摘した。また、Dornyei（1990a, 1990b）では、道具的動機づけが外国語学習者に重要であるとしている。最近、第二言語また外国語学習動機づけの研究が進み、社会心理学の立場にたったGarnderらの動機づけ理論に対して、疑問を指摘されるようになった。そして、社会心理学だけではなく心理学の他の分野（例えば、一般心理学、教育心理学及び認知心理学など）の要素をも言語学習動機づけ理論に取り入れるべきだとの主張が出ている（Crookes and Schmidt 1991; Oxford and Shearin 1994; Dornyei 1994ほか）。

前述のように、カナダやアメリカの社会背景をもとにしたGardnerらの伝統的な動機づけの二分法では、学習者の動機構成の多様性が見えなくなる恐れがある。また、このアプローチは、目標言語を外国語として学ぶ学習者の場合には必ずしもあてはまらない。最近、Garnderらの理論を踏まえての外国語学習動機づけの研究は世界各地で行われているが、異なる学習者や学習環境を網羅するグローバルな動機づけ理論の枠組みを構築するのには、各地域でのケーススタデイーが必要である。

1. 2. 2　外国語として日本語学習の動機づけ

日本語学習者の動機づけを扱った研究には、ニュージーランド人大学生を対象にした縫部他（1995）とタイ人大学生を対象にした成田（1998）等がある。縫部他（1995）は統合的動機づけは訪日経験がある方が、道具的動機づけは学習期間が長いほうが高いとし、「周囲に言われて勉強を始めた」などの第三の動機づけ「誘発的動機」を認めている。また、成田（1998）は6つの動機づけを認め、統合的動機づけの高い学習者の成績がいいことを報告している。一方、シンガポール人大学生を対象にした郭・大北（2001）では、統合的動機づけ、道具的動機づけのほかに、学習成果に影響を及ぼす要因の1つとして「エリート主義」を認めている。

2. 研究方法

2. 1　調査対象

中国ハルビン理工大学外国語学部日本語科に在籍中の大学生（250人）を対象に、授業時間にアンケート調査を行った。無回答や一部しか回答しなかったものを除き、200人分（男性55人、女性145人）回答が得られた。回答者の属性は表1に示す。

表1　学習者の出身地

出身地	回答者（人）	出身地	回答者（人）
黒竜江省	83	湖北省	3
遼寧省	15	江蘇省	3
山東省	14	江西省	3
山西省	14	安徽省	2
北京市	10	海南省	2
湖南省	10	福建省	2
吉林省	10	雲南省	2
広東省	8	貴州省	1
四川省	5	内蒙古自治区	1
広西省	5	無回答	2
河北省	5	計	200

2. 2　アンケート

アンケートは、動機づけと学生の属性の二つの部から構成される。動機づけの項目はまず、予備調査で30人の学生に日本語学習の理由を自由記入式してもらい、その結果をもとにしGardner（1972)、縫部他（1995)、郭・大北（2001）を参考に中国語で作成した。動機づけについては７段階の尺度法（１＝大反対　７＝大賛成）でつけてもらった。調査は2005年10月に第二学期の授業期間中に行った（付録)。

学習者の日本語能力評価は、学習者の到達した能力を測るのに、学期末試験がよりふさわしいと思われるため、学期末の学力試験の成績を使用した。

2. 3　データ分析

データは、PC-SAS Learning Edition 1.0（Statistical Analysis System）を用いて「因子分析」と「ステップワイズ回帰分析」を行った。因子は次の三つの基準（Cattell 1966）で抽出した。１）固有値が≧１であること　２）各因子が少なくとも全体変数の2.7％を説明できること　３）因子負荷量が0.35以上であること。回帰分析は５％を有意水準とした。

3. 結果

3. 1　因子分析

38項目の動機について因子分析を行った。そして、抽出した因子を最大限分離するためにプロマックス回転を行った。抽出した因子と因子負荷量は下記のとおりである。

因子１　日本留学志向因子

.75592	家族に勧められたから
.67068	友達が日本にいるから
.65792	中国人にとって簡単である
.58625	日本人と日本文化に興味がある
.55169	社会の潮流に乗る
.54450	日本料理に興味がある
.49516	日本に留学したとき便利だ
.47295	日本が好きだ
.30967	他の人よりたくさん勉強している

因子１は「家族に勧められたから」、「友達が日本にいるから」、「日本に留学したとき便利だ」など、日本、日本文化及び日本留学に興味を持つような内容からなり、これを「日本留学志向因子」にした。

因子２は「言語の学習に興味がある」、「日本語は日常生活の中で役に立つ」、「日本語はきれいだ」、「日本語の勉強は最近はやっている」などのように、外国語や日本語の学習に興味を示すものから、これを「語学学習志向因子」とした。

因子２　語学学習志向因子

.73257	言語の学習に興味がある
.65116	卒業後も日本語の勉強を続ける
.60340	日本語は日常生活の中で役に立つ
.57597	日本文学に興味がる
.52586	日本語はきれいだ
.46838	外国語の勉強はロマンチックだ
.46180	日本語の勉強は最近はやっている
.44643	日本語の勉強は挑戦的だ

因子３は、「日・中関交流の仕事をしたい」、「外国人と接する機会が増える」、「外資企業に就職したい」、「文化交流に役立つ」など、仕事特に外国との文化交流の仕事に関するものが主な内容となっているため、これを「仕事因子」とした。

因子３　仕事因子

.76752	日・中関交流の仕事をしたい
.66965	外国人と接する機会が増える
.64768	日本人の民族心理的な特徴に興味がある
.58845	外資企業に就職したい
.55491	文化交流に役立つ

因子４は、「自分自身の視野を広める」、「自分自身の競争力を高める」、「新しい知識を身につける」「異なった文化背景の人と接する」など自己尊重に関するものが主な内容となっているため、これを「自己尊重因子」とした。

因子４　自己尊重因子

.74739	自分自身の視野を広める
.64116	自分自身の競争力を高める
.53257	大学で日本語の受講ができなかった場合、民間の日本語学校で勉強する
.48240	新しい知識を身につける
.44094	異なった文化背景の人と接する

因子５は、「日本のテレビドラマや日本の歌が好きだ」、「日本語に興味がある」、「日本のマンガやテレビ番組に興味がある」、「自分のまわりに日本のものが溢れている」など、日本のポピュラーカルチャーに関するものが主なので、これを「日本大衆文化因子」とした。

因子５　日本大衆文化因子

.67387	日本のテレビドラマや日本の歌が好きだ
.64337	日本語に興味がある
.54459	日本のマンガやテレビ番組に興味がある
.47059	自分のまわりに日本のものが溢れている
.42796	就職の際に便利だ
.37098	出来るだけ日本語で話すようにする

因子６は、「日本の企業管理の技術や日本人の民族精神を学ぶ」、「日本の先進的な科学技術に興味がある」、「日本人の生活習慣が知りたい」、「日本を旅行したい」など、日本や日本人についての内容なので、これを「日本理解因子」とした。

因子６　日本理解因子

.65051	日本の企業管理の技術や日本人の民族精神を学ぶ
.66472	日本の先進的な科学技術に興味がある
.47266	日本人の生活習慣が知りたい
.42710	日本で仕事をしたい
.34445	日本を旅行したい

3. 2　ステップワイズ回帰分析

表２が示すように、因子間に低い相関関係が見られたため、ステップワイズ回帰分析方法を採用した。動機づけが学習成績に与える影響をみるため動機づけの六つの因子を独立変数、学習成績を従属変数として回帰分析を行った。

表３にあるとおり、六つの予測因子の中で「仕事因子」だけが予測因子として統計的に有意であった。つまり、「仕事因子」が日本語学習の成績に影響を及ぼしていることになる。

表２　　因子間相関行列

ラベル	因子名	因子１	因子２	因子３	因子４	因子５	因子６
日本留学志向因子	因子１						
語学学習志向因子	因子２	0.26521					
仕事因子	因子３	0.27415	0.39703				
自己尊重因子	因子４	0.24182	0.25556	0.17923			
日本大衆文化因子	因子５	0.21016	0.20971	0.26716	0.15022		
日本理解因子	因子６	0.13286	0.17733	0.04694	0.07851	-0.06376	

表3　ステップワイズ回帰分析による因子と学習成績との関係

ステップ	変数	R	F
1	因子3	0.013	2.15**

*P<0.001

4. 考察

まず、38項目からなる日本語学習動機について因子分析を行った結果、「日本留学志向因子」、「語学学習志向因子」、「仕事因子」、「自己尊重因子」、「日本大衆文化因子」、「日本理解因子」が抽出された。Gardnerらの理論から言えば、「日本留学志向因子」、「語学学習志向因子」、「日本大衆文化因子」、「日本理解因子」は目標言語や目標言語集団に興味を示す内容で統合的動機づけ、「仕事因子」は道具的動機づけに分類できる。

一方、「自己尊重因子」や「語学学習志向因子」は、Oxford and Shearin (1994) の言う「エリート主義」や郭・大北 (2001) の「自己満足因子」と重なる部分が多い。中国では1977年に大学受験制度が回復されてから、日本語は外国語受験科目のひとつとされてきた。それに、近年中国の経済の急成長や外資企業の進出につれて、英語や日本語など外国語のできる人材の需要がいっそう高まってきた。民間企業や政府機関などでは、コンピューター応用力や外国語能力の有無が職員の評価や昇進の重要な条件の一つとされている。また、今中国の若者の間で理想な職種とされている公務員や大学教員、研究者及び外資系企業の会社員などの職に就くには、外国語ができることが条件付けられている。したがって、日本語ができることは、人材競争の激しい中国社会で立身出世の重要な武器のひとつと言える。こういった中国の社会状況を考えれば、「語学学習志向因子」や「自己尊重因子」は一種の「エリート主義」としても考えられよう。従って中国での動機づけ構成要素はつぎのように分類できる。

1．統合的動機づけ ――「日本留学志向因子」、「大衆文化因子」、「日本理解因子」
2．道具的動機づけ ――「仕事因子」
3．エリート主義 ――「自己尊重因子」、「語学学習志向因子」

動機づけと学習成果との関係をステップワイズ回帰分析で分析した結果、六つの因子の中で「仕事因子」だけが日本語学習の成績を予測する因子であることが明らかになった。これは、中国における日本企業の進出状況及び日本語の経済的価値を反映している。現在日本は、香港・マカオ、アメリカに次ぐ第三位の中国投資国となっている。「政冷経熱」と言われるほど日本との密接な経済的関係及び日本語ができる若者に対する需要が大きくなってきていることを物語っている。

シンガポール大学生を対象にした郭・大北 (2001) と異なる結果の一つは、本研究で抽出した「日本留学志向因子」、である。これはシンガポールと中国の言語的・文化的状況によるものと思われる。シンガポールでは英語を行政用語・教育媒介語とされているためか、学生

が留学するのはそのほとんどの場合はイギリスやアメリカなど、英語を話す国である。しかし、中国の大学生の場合は日本を選ぶものが多い。考えられる理由の１つは地理的に近いということと、中国でも日本でも漢字が使われていることであろう。

しかし、なぜ「日本留学志向因子」、「日本大衆文化因子」、「日本理解因子」といった統合的動機づけや「自己尊重因子」、「語学学習志向因子」が日本語学習成績と統計的に有意な関係が見られなかったのか。確かに、経済の発展で一部の国民が豊かになってきた。しかし、貧富の差が拡大、特に沿岸地域と農村との間に国民の所得の差が大きくなっているため、物価の高い日本に子どもを留学させるということは多くの父母にとっては現実的なことではない。また、最近冷え込んでいる日中両国の政治的関係も中国人学生の日本留学に陰影を投げかけている。

もう１つ考えられる原因は、中国各地の日本人社会や日本人との交流が少ないことである。教室を離れてしまうと、日本人または日本語と接する機会がほとんどない。「日本大衆文化因子」に関しては、テレビゲーム、漫画及びJ-popなど日本の若者文化に接することによって芽生えた日本や日本語に対する興味が日本語の上達には結びついていないことを示している。これは、郭・大北（2001）で指摘した、日本製品（ハード及びソフト）を消費はするが日本文化は受け入れないことを反映していると思われる。目標言語社会との交流が語学学習継続に必要（Gardner 1985）だとすれば、せっかく芽生えた日本に対する興味を持続させ日本語学習上達に結びつけるためには、中国の日本人社会、特に学生と同世代の日本人と交流し日本語や日本文化と接触の機会を教室の内外で増やしていく必要があると思われる。

5. まとめと今後の課題

ハルビン理工大学の日本語学科で日本語を学ぶ中国人大学生の日本語学習の動機づけを分析した結果、「日本留学志向因子」、「語学学習志向因子」、「仕事因子」、「自己尊重因子」、「日本大衆文化因子」、「日本理解因子」という６つの因子が抽出された。「日本留学志向因子」、「語学学習因子」、「日本大衆文化因子」、「日本理解因子」は「統合的動機づけ」に、「仕事因子」は「道具的動機づけ」に、「自己尊重因子」及び「語学学習志向因子」は「エリート主義」に分類できる。この結果はシンガポール大学生を対象とした郭・大北（2001）の一部と一致する。さらに「仕事因子」が日本語学習成績を予測する最大の予測因子であることが明らかになった。「仕事因子」が日本語学習上達に影響を与えていることは、中国と日本との密接な経済的関係及び日本企業の進出状況をよく反映していると言える。また統合的動機づけが日本語の上達に導くようになるためには、日本文化や日本人との交流を教室の内外で増やす工夫が必要だと思われる。本研究の結果の一部が縫部ら（1995）、成田（1998）と郭・大北（2001）など先行研究と異なるのは、学習環境や学習者の違いによるものと考えられる。Ellis（1985）が指摘したように動機づけは学習環境に左右されるので、今後、学習環境と日本語学習動機づけや学習成果との関係をより一層理解するためにいろいろな地域での研究が必要である。

本研究は、ハルビン理工大学で日本語を学ぶ大学生の一部を対象にしたもので、特に東北出身者が多かった。中国の南方各省、特に経済が進んでいる東南沿海一帯の学習者の場合には必ずしも当てはまるとは限らない。したがって、中国の大学生の日本語学習動機付けをあきらかにするためには、他の地域、特に東南沿岸や西部の大学生を対象にした研究が必要である。被験者の男女差は大きかったため、性差による動機づけの変化については分析することが出来なかった。これを今後の研究にしたい。

参考文献：

郭　俊海・大北葉子（2001）「シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて」『日本語教育』110号、130-139、日本語教育学会

成田高宏（1998）「日本語学習と成績との関係：タイの大学生の場合」『世界の日本語教育８』

縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩（1995）「大学生の日本語学習に関する国際調査—ニュージーランドの場合—」『日本語教育』86号、日本語教育学会

Cattell, R. B. 1966. The scree test for the number of factors. Multivariate Behavioral Research, 1: 245-276.

Chihara, T. and Oller, L. W. 1978. Attitudes and attained proficiency in EFL: A sociolinguistic study of adult Japanese speakers. Language Learning, 28:55-68.

Crookes, G. and Schmidt, R. 1991. Motivation: Reopening the research agenda. Language Learning, 41: 469-512.

Dornyei, Z. 1990a. Conceptualizing motivation in foreign-language learning. Language Learning. 40: 45-78.

Dornyei. Z. 1990b. Analysis of motivation components in foreign language learning. Paper presented at the 9th World Congress of Applied Linguistics, Thessaloniki - Halkidiki, Greece.

Dornyei, Z. 1994. Understanding L2 motivation: on with the challenge! Modern language Journal, 78 (4): 515-23.

Ellis, E. 1985. Understanding Second Language Acquisition. Oxford University Press.

Ellis, E. 1997. The Study of Second Language Acquisition. Oxford University Press.

Gardner, R. C. 1979. Social psychological aspects of second language acquisition. Giles H and St Clair, R.(Eds). Language and Social Psychology. Oxford: Basil Blackwell.

Gardner, R. C. 1985. Social Psychology and Second Language Learning. Edward Arnold Publishers.

Gardner, R. C. and Lambert, W. E. 1959. Motivational variables in second language acquisition. Canadian Journal of Psychology. 13: 266-272.

Gardner, R. C. and Lambert, W. E. 1965. Language aptitude, intelligence, and second language achievement. Journal of Educational Psychology, 56: 191-199.

Gardner, R. C. and Lambert, W.E. 1972. Attitudes and Motivation in Second Language

Learning. Newbury House.

Gardner, R. C. , Lalonde, R. N., Moorcroft, R. and Evers, F. T. 1985. Second language attrition: the role of motivation and use Journal of Language and Social Psychology, 6: 29-47.

Lukmani, Y. 1972. Motivation to learn and language proficiency. Language Learning. 22: 261-73.

Oxford, R. and Shearin, J. 1994. Language learning motivation: expanding the theoretical framework. The Modern Language Journal, 78 (i) 12-28.

Scarcella, R., Oxford, R. L. 1992. The tapestry of language learning: The Individual in the Communicative Classroom. Baston: Heinle and Heinle.

付録：アンケート調査用紙

日语学习问卷调查

1. 姓名:_____ 2. 性别:M/F 3. 专业:_____ 4.____年级 5. 年龄:____岁 6. 籍贯:_____省

---

1. 您是否同意以下学习日语的理由? 结合您自身的情况、请就每一条理由在1 ～ 7之间做出选择.

(1=坚决不同意 2=非常不同意 3=不太同意 4=不知道 5=少许同意 6=非常同意 7=坚决同意)

我之所以学习日语、是因为:

例:	我喜欢日语	1	2	3	4	5	6	⑦
1.	方便找工作	1	2	3	4	5	6	7
2.	对日语有兴趣	1	2	3	4	5	6	7
3.	对日本漫画，电视感兴趣	1	2	3	4	5	6	7
4.	日语比较容易学	1	2	3	4	5	6	7
5.	便今后去日本留学	1	2	3	4	5	6	7
6.	了解日本文化和风俗习惯	1	2	3	4	5	6	7
7.	对日本科技有兴趣	1	2	3	4	5	6	7
8.	想去外企工作	1	2	3	4	5	6	7
9.	家庭和周围人的意见	1	2	3	4	5	6	7
10.	想去日本旅游	1	2	3	4	5	6	7
11.	如果大学不开日语课、我会去日语学校学日语	1	2	3	4	5	6	7
12.	日语近年很受欢迎	1	2	3	4	5	6	7
13.	具有挑战性	1	2	3	4	5	6	7
14.	如条件允许、毕业后我会继续学习日语	1	2	3	4	5	6	7
15.	对日本文学有兴趣	1	2	3	4	5	6	7
16.	如条件允许、我会尽量讲日语	1	2	3	4	5	6	7
17.	学习日本的管理经验和日本人的精神	1	2	3	4	5	6	7
18.	与我的同学相比、我比他们更努力地学日语	1	2	3	4	5	6	7

19. 日语听起来很优美	1	2	3	4	5	6	7
20. 对语言有兴趣	1	2	3	4	5	6	7
21. 日语在生活中很有用	1	2	3	4	5	6	7
22. 认识不同背景的人	1	2	3	4	5	6	7
23. 学外语很浪漫	1	2	3	4	5	6	7
24. 对文化交流有帮助	1	2	3	4	5	6	7
25. 掌握一门新的知识	1	2	3	4	5	6	7
26. 对中日交流的工作感兴趣	1	2	3	4	5	6	7
27. 有机会与外国人接触	1	2	3	4	5	6	7
28. 扩展自己的认识领域	1	2	3	4	5	6	7
29. 研究日本的民族心理	1	2	3	4	5	6	7
30. 使自己具竞争力	1	2	3	4	5	6	7
31. 生活中有许多日本的东西	1	2	3	4	5	6	7
32. 对日本人和日本文化感兴趣	1	2	3	4	5	6	7
33. 喜欢看日剧，听日本歌曲	1	2	3	4	5	6	7
34. 在日本找商机	1	2	3	4	5	6	7
35. 适应社会发展	1	2	3	4	5	6	7
36. 对日本料理感兴趣	1	2	3	4	5	6	7
37. 朋友在日本	1	2	3	4	5	6	7
38. 喜欢日本	1	2	3	4	5	6	7

多　謝　和　作！！